

平成 20 年度第 2 回知床世界自然遺産地域連絡会議

議事概要

平成 21 年 2 月 26 日 (木) 13:30 ~ 15:10

斜里町産業会館 2 階大ホール

1. 開会

2. 挨拶：釧路自然環境事務所長

3. 議事

議題 1：科学委員会の経過及び今後の予定について

環境省から「資料 1 - 1：科学委員会の系統計画について」について説明

(科学委員会) 遺産管理計画の案を科学委員会で議論して作成したので、地域連絡会議でも十分議論してほしい。

環境省、道庁、森林管理局から「資料 1 - 2：エゾシカワーキンググループ経過報告・今後の予定」、「資料 1 - 3：海域ワーキンググループ経過報告・今後の予定」、「資料 1 - 4：河川工作物の改良とモニタリングの実施状況」について説明

(森林管理局)「資料 1 - 4：河川工作物の改良とモニタリングの実施状況」については、科学委員会から解釈をつけるべきという指摘と、科学委としてのフォローアップ体制があるという指摘があった。事務局でその体制作りを検討しているところである。

・質問・意見なし

議題 2：平成 20 年度調査・事業実施状況について

環境省から資料について説明

・質問・意見なし

議題 3：知床世界自然遺産地域管理計画の策定について

環境省から資料について説明

(知床ガイド協議会) 羅臼側の海岸の岬の方には、昆布番屋があり、朽ち果てようとしている。自然環境の保全管理やトレッキングしてきた人のためにもきちんと補修して、歴史的なものとして人に見せたり、トレッキングしてきた人の避難場所にしたりといった活用をすべきではないか。昆布番屋の保存について、1 項目入れることはできないか。研究者が調査に行ったときに番屋にお世話になっている。もう 3 軒くらいしか残っていないが、考えていただければ、番屋を残してほしい。

(環境省)残すべきものと、朽ち果てたものをきれいに整理するという 2 点があると思う。遺産管理計画に記載できるかはわからないが、国立公園としての問題でもあるので、課題として受け止め、検討したい。

(知床ガイド協議会) よろしくお願ひしたい。

(環境省) みなさんでしっかりと議論をして、管理計画に書く必要が出てくれば書くことになる。これも含めてご意見をいただきたい。年次報告書についてだが、資料2ではわかりにくいので、年次報告書ではわかりやすくまとめていきたい。わかりやすい年次報告書をつくることで、皆様の関心を高め、様々なご意見をいただきたいと考えている。

<会場から特に意見無し>

本日いただいた意見と、科学委員会からの意見で1つ残っているところについて今後修正し、それを地元説明会とパブリックコメントにかけるので、議題3については時間を取って議論したいので、ご意見をお願いします。

<会場から特に意見無し>

今後、パブリックコメントで個人として意見を出していただくこともできる。遺産管理計画の文言としては、科学委員会から出されている適正利用以外の箇所は修正ないということで、この場では了承いただいたということによろしいか。

<うなずく人有り>

ありがとうございます。

議題4：知床世界遺産シンボルマークの策定について

環境省から資料について説明

(斜里町) 商標登録は考えているのか。第何類の役務になるのか。

(環境省) 行政だけの使用の段階では登録不要と考えているが、民間が使う段階になるとときには特許庁に登録することで考えている。商標や意匠登録ではなく、他の良い形があると菅原審査委員長に言われているので、検討したい。ただし、任意団体としての地域連絡会議としては登録できないので、他の法人格を有する団体に委託するなどして登録してもらうことが必要となる。

(斜里町) サービス登録のことだと思う。サービス登録だと、役務だけが対象となるので、他の人が使っていても違法とできないので、しっかりした手続きでやってほしい。斜里町でもブランドについて検討しているので、そこへも応用できるようにお願ひしたい。

(環境省) 町からもアドバイスをほしい。今後も両町とよく相談していきたい。

(ウトロ地域協議会) シンボルマークの策定は非常によい取組だと思う。私もフォトコンテストをやったことがあるが、今回の公募ではプロのデザイナーが応募してくると思う。しかし、審査において、我々素人とデザインのプロとが同等の立場で審査するようになる。シンボルマークは長く使うものでもあるので、プロの意見を重視してほしい。

(環境省) 審査委員長からも単に投票での獲得点数の高いものが真にすぐれたものではないとの指摘をいただいたりしている。我々による一次審査で選にもれたものも、敗者復活戦としてプロに見てもらおうことを考えている。菅原審査委員長はこの分野の北海道での第一人者なので、進行も含めて任せたい。

(環境省) いただいた意見を踏まえて、長く使うことのできるよいシンボルマークとした
い。3月27日は1機関1名、どなたでも良いので来ていただくようお願いする。

議題5：知床世界遺産センター及びルサフィールドハウスについて

環境省から資料について説明

(環境省) 2005年に座礁した11頭のうち、一番大きかったシャチの骨格標本が羅臼VCに
展示された。アクリル板を使って、ひれも復元しているのが大きな特徴。是非見に来て
ほしい。

(羅臼町) ルサフィールドハウスの建物、展示については、環境省には尽力していただき、
感謝している。先日の打合せで、冬の水回りについて使用できるのかという話があった
が、どうなのか教えてほしい。

(環境省) 水回りの周辺にヒーターがあるので、おそらく大丈夫だと聞いている。しかし、
雪が玄関にふきだまったり、すごい寒波が来たりしたらどうなるのかわからない。来年
の冬から本格的に供用するのではなく、来年の冬はまずは試験的に行ってみることを検
討したい。

(環境省) 特に運営面については皆さんにご協力、ご意見いただきたいと考えている。今
後もよろしくお願いしたい。

議題6：地域連絡会議等の今後の予定について

環境省から資料について説明

・質問・意見なし

議事7：その他

(科学委員会) まだ公式発表していないので、暫定版ではあるが、チラシのとおり日露シ
ンポジウムを開催予定である。チラシにある白いクマはヒグマである。そもそも日露の
シンポジウムが開催されたのは、羅臼漁協のスケトウダラの話から始まっており、日露
の協力の必要性についてはユネスコにも科学委員会から説明していた。それを外務省が
拾って、もっと大きく日露生態系全体についての話となっている。特に、大島さんがア
ムールオホーツクプロジェクトでアムール川の鉄分が重要という話も当日されるし、そ
ういう物理的なデータと漁業の関係もシンポジウムの軸の一つである。3/8は札幌で
の開催となるが、是非、特に漁業関係者は参加してほしい。また周りの皆様にも宣伝し
てほしい。

(環境省) 是非ご参加いただきたい。

(知床ガイド協議会) エゾシカについて、H21年までに成果が上がらないとか、お金がか
かりすぎているという話を聞くが、どうなのか。

(環境省) 知床岬での捕獲については、3カ年計画で行っており、現在2年目。やり方は昨年比べて今年は効率的なものに改善している。この2カ年の結果を受けて、さらに効率化できるのか、続けるのか、検討していきたい。一方で、知床岬では、イネ科草本の量が3割復元するなど、効果も出ているようなので、エゾシカWGでよく検討したい。

(知床ガイド協議会) シカの獲り方は知床財団が決められているのか? 地元の猟師からは、あのやり方では逃げられる、という話を聞く。懸賞金を出せば、100頭、200頭はとれるという意見もある。猟師とよく相談してほしい。猟についてよくわかっていない人たちでやっていくのも難しいと思う。

(環境省) 両町の猟友会とよく財団が相談し修正しながら進めているし、提案があれば改善していく。3年やるというのは、実際に捕獲できるのか、生態系回復の効果があるのか、を検証するためである。今後の岬以外の地域で実施するためのデータにもなる。

(知床ガイド協議会) あまり時間をかけて獲っても仕方がないので、研究に力を入れすぎて捕獲しにくいようではよくないと思う。

(環境省) こちらもゆっくりやろうとは考えていない。またアドバイスをいただきたい。